

「底が突き抜けた」時代の歩き方⁴⁶⁹

年表から飛び出してくる 1968年 - 1972年～1973年
1972年

●連合赤軍浅間山荘銃撃戦 1月8日、連合赤軍の西丹沢アジト発見。

2月14日、群馬・榛名山アジト発見。16日、群馬県警、妙義山中でライトバンに乗った不審なグループ発見、永田洋子ら3人逃亡、杉崎ミサ子(24)と奥沢修一(22)逮捕。

17日、妙義山に逃げた最高幹部・永田洋子(27)と森恒夫(27)を穴蔵で逮捕。迦葉山アジトの穴蔵から爆弾材料や100万円近い現金発見。

19日、国鉄軽井沢駅で残党グループとみられる植垣康博(23)ら男女4人逮捕。連合赤軍の男5人が軽井沢の別荘地「さつき荘」近くで警官隊と撃ち合い。「さつき荘」で猟銃5丁発見(うち4丁は栃木・真岡市の猟銃店から強奪したものと判明)。連合赤軍は「浅間山荘」に管理人の妻牟田泰子さん(31)を人質にして立て籠もる。完全武装の警官隊750人山荘包囲。

22日、身代わりになると浅間山荘に近づいた一般人が撃たれて重傷(後、死亡)、警官2人重軽傷。

23日、午前7時10分すぎで、最も長く人質をとって籠城した金嬌老事件(87時間40分)の記録を超える。

28日、約1500人の武装警官を動員、午前10時に総攻撃開始。クレーン車で吊り下げられた2トンの大鉄球で、山荘玄関脇の壁に大穴を開けたのをきっかけに約130人が突入、連合赤軍を3階屋根裏部屋に追い詰める。連合赤軍はライフル、猟銃、手製爆弾で反撃、警官2人死亡、5警官重軽傷。午後6時過ぎに泰子さん救出。坂口弘(25)、坂東国男(25)、吉野雅邦(23)、少年兄(19)、少年弟(16)の5人逮捕。逮捕された元京大生の赤軍派最高幹部・坂東国男の父親(51)「世間を騒がせたことを死んでおわびする」との遺書を残して首吊り自殺。

3月7日、妙義山籠沢アジト付近で逮捕した連合赤軍の永田洋子、森恒夫、杉崎ミサ子、奥沢修一の自供から、「内部で意見の対立があり、反対した男一人をアジト近くで殺し、全裸にして埋めた」ことがわかり、探索した結果、元京大生・山田孝(27)の死体発見。

3月10日、森の自供から「冷凍処刑」された京浜安保共闘の金子みちよ(24)、山本順一(28)、大槻節子(23)の3遺体発見。更に12日までに、寺岡恒一(24)、尾崎充男(22)、加藤能敬(22)、山崎順(21)、行方正時(22)、小嶋和子(22)、遠山美枝子(25)、進藤隆三郎(21)の遺体発見。妊娠8カ月の金子み

ちよは、吉野の子を宿していた。山本順一の妻保子が名古屋・中村署に出頭、逮捕。

12日、永田洋子、「15人を殺した」と自供。昨秋、西丹沢で2人、笛吹川で1人をリンチ殺人。

13日、山本の長女頼良ちゃん(3ヶ月)が千葉・市川で保護され、山中から頼良ちゃんを連れ出した中村愛子(22)は警視庁に出頭、逮捕。手配中の岩田平治、長崎県辰野署に出頭、逮捕。これでこの事件関係者29人中12人の死体発見、兵士17人全員逮捕。

23日、連合赤軍幹部吉野雅邦、昨年8月中旬、男女2人を都内のアジトで殺し、千葉県印旛沼近くに埋めたと自供。

25日、向山茂徳(21)、早岐やす子(22)の遺体発見。警視庁、殺害は14人ですべてと確信。

5月8日、森、永田ら15人を殺人罪などで起訴。

73年1月1日、森恒夫、東京拘置所独房で首吊り自殺。遺書で「唯銃主義」と「総括」によるリンチ殺人を自己批判。

75年8月5日、坂東国男、日本赤軍のクアラルンプール事件で、「超法規的措置」により出国、坂口弘は拒否。

79年3月19日、東京地裁、吉野雅邦に無期懲役判決→83年2月2日、東京高裁、無期懲役判決(控訴せず確定)。

82年6月18日、東京地裁、永田洋子、坂口弘に死刑判決→86年9月26日東京高裁、永田洋子、坂口弘に死刑判決。93年2月19日、最高裁判決で、永田洋子、坂口弘、死刑確定。

- 1月12日、共産同RG、スポイト爆弾事件で3人逮捕。

11月、早大生・川口君、内ゲバ・リンチ殺人の犠牲。

- **横井軍曹、密林で発見** 1月24日、第二次大戦の生き残りの日本兵、愛知県海部郡出身の横井庄一陸軍軍曹(56)が、グアム島の密林で28年ぶりに現地の漁民に発見される。日本兵の生還は12年前の皆川文蔵・伊藤正さん以来三人目。仲間二人は死んだという。この日、川でエビを取っているところを現地人に見つかり、保護された。横井さんは、髪は長めだが服装もきちんとしていて元気そうで、ジャングルで果実や芋を取って食べ、マンゴーの葉から衣服を作るなど、自給自足の生活で28年間を生き延びた。

25日、深さ3mで横穴もあるジャングルの“隠れ家”で、投降勧告も涙で無視し、木の実をこすって火を起し、「私はただ生きた」と語る。

27日、8年前まで横井さんと暮らしていた日本兵二人の遺骨を収容。志知幹夫さん(岐阜県大垣市出身)と中島悟さん(広島県庄原市出身)と確認。

2月2日、「帰ってきました…恥ずかしながら」と、特別機で東京・羽田空港到着の第一声。以降、サバイバル体験を生かした講演活動などで人気を集め、97年9月、死去。

10月19日、ルパン島で日本兵二人が警察軍と銃撃戦、小野田少尉負傷、小塚金七一等兵戦死。その後、小野田少尉は帰国。

● **わいせつ規制強化** 1月28日、警察庁、日活ロマンポルノ「恋の狩人」など3本をわいせつ容疑で押収。5月7日、大阪・吉野ミュージック劇場に出演中のストリッパー条さゆり、公然わいせつ罪現行犯で逮捕。12月6日、実刑判決。

5月8日、出版倫理協議会、雑誌「スーパー7SM」に自主規制を求める。

6月22日、永井荷風原作といわれる「四畳半襖ノ下張」を連載した雑誌「面白半分」7月号が、刑法でいう「わいせつ文書」に当たるとして発禁処分。警視庁のこの処分は、同作品が48年、すでに「わいせつ文書」とされていたことによる。編集責任者の作家野坂昭如(41)は「すぐれた芸術品の価値を無視し、わいせつと決める根拠はどこにある」と抗議、7月29日には裁判闘争を宣言してポルノ論争は裁判へ。「わいせつ」と「芸術」をめぐるこの裁判は76年に東京地裁で有罪判決。79年、東京高裁でも有罪判決。

● 1月30日、北アイルランド北部のロンドンデリーで、カトリック系市民の公民権デモにイギリス軍部隊が発砲、カトリック系の若者たちはイギリス軍に投石するなどして抵抗、死者13人を出す血の日曜日事件が起こり、報復が報復をよんで、いまだ事態収拾の見通しもない。北アイルランドでは60年代末から、前近代的な選挙制度を改めようとする公民権運動が高まり、この運動を展開する少数派のカトリックとプロテスタントとの対立が激化し、警察やイギリス軍も巻き込んだ激しい抗争が続いていた。

3月22日、北アイルランド首相ブライアン・フォークナー(51)とイギリス首相エドワース・ヒース(56)が会談し、激化の一途を辿る内戦の終結を協議した。二日間にわたる協議の結果、イギリス政府は北アイルランド議会を一年間停止させ、北アイルランド担当相の管轄として直接統治することで合意。これを受けて、フォークナー内閣は総辞職したが、イギリス政府による北アイルランド直接統治は、急進的なカトリックだけでなく、プロテスタントからも非難された。

7月21日には「血の金曜日事件」も起こり、11月16日にヒース英首相が、武力抗争の続く北アイルランドのベルファストを訪問し、12月にアイルランド共和国政府が、アイルランド共和国軍(IRA)弾圧に本格的に乗り出す。

● **札幌冬季オリンピック開催** 2月3日、70m級ジャンプでこれまで冬のオリンピックで一度も金メダルを取ったことのない日本選手の笠谷幸生らが金・銀・銅のメダルを独占し、不振の日本勢のうっぴんを晴らす。

● **ニクソン米大統領訪中** 2月21日、毛沢東主席(79)、周恩来総理(74)ら中国側首脳と、米中関係正常化のための史上初のトップ会談に入った。27日、上海で米中共同コミュニケを発表し、アメリカは、台湾を中国の一部として認め、「二つの中国」政策に終止符を打つ、台湾からのアメリカ軍と軍事施設のすべての撤退を最終目標にする、に合意し、中国は、ベトナム戦争に軍事介入しないことを確認した。また両国は、日米安全保障条約が日本の軍国主義台頭を抑えるためのものであり、中国に向けられたものでないことを確認し合う。

9月29日、北京で中国側から周恩来首相らと、日本側から田中角栄首相(54)ら

との間で調印式が行われ、半世紀ぶりに日中国交が回復し、「二つの中国」問題に終止符を打った。78年には日中平和友好条約が結ばれて、日中関係が強化され、経済や文化交流の面でも緊密化を増していく。

●**明日香村高松塚古墳で極彩色壁画発見** 3月21日、古墳内部の石壁に白虎や青竜、金箔の星座や男女の像が色鮮やかに描かれており、華麗さにおいて法隆寺金堂の壁画に匹敵し、近畿地方には装飾古墳はないという学界の定説をくつがえす大発見となって、世の「古代史ブーム」を惹き起こす。

7月30日、中国・湖南省長沙で2100年前の貴婦人が、生前のままの姿で出土される。身長154cmほど、体重は生前70kg近くあり、50歳前後で亡くなったと思われる。髪や歯も残り、皮膚にはまだ弾力があるほどで、解剖の結果、死因は胆石による冠狀動脈性心障害ではないか、との所見。前漢初期、諸侯国である長沙国の宰相だった軟侯利蒼の妻とみられ、副葬品も豊富で、日常用具がその名称と数を記したリストと共に出土。

●**外務省「機密漏洩」事件** 3月27日、衆院予算委で社会党横路孝弘議員が外務省の極秘公電コピー二通を示し、沖縄復帰に伴う米軍用地の復元補償費を日本が肩代わりする日米「密約」について追及。28日、政府、「密約」を否定しながら公電の存在は事実上認める。29日、福田外相、漏洩経路について省内徹底調査命令。31日、外務省蓮見喜久子事務官から極秘公電コピーを外部に流した事実を聴取。

4月3日、蓮見事務官から毎日新聞政治部西山太吉記者にコピーが渡されたことが判明。社党が入手コピーの真正を実証するため、外務省保管原本との突き合わせに応じたことにより、漏洩源を知らせる結果となった。

4日、外務省、蓮見事務官を国家公務員法100条（秘密を守る義務）違反で警視庁に告発。警視庁は西山記者にも出頭を求め、夕刻二人逮捕。5日、毎日新聞社などの各社は「知る権利」への干渉として反発。6日、東京地裁、拘置決定。

7日、参院予算委で、昨年12月の沖縄国会で米軍用地復元補償でメモ・記録・電報は一切ないと答弁した吉野外務省アメリカ局長が、「電報のやりとりがなかったといったのは事実と反する」として陳謝。密約の有無は否定。

8日、毎日新聞社、西山記者の拘置決定の取り消しを求める準抗告。9日、東京地裁、拘置決定取り消し。

15日、地検、蓮見事務官釈放、国家公務員法100条違反で起訴。

西山記者を同111条（秘密漏洩をそそのかす罪）で起訴。起訴状では「1971年5月22日ころ、同被告人（蓮見事務官）をホテル山王に誘って、情を通じたあげく」と、男女の私的関係を強調した意図が示され、「知る権利」を男女関係に絡む「機密漏洩」事件にすり替える政略がみられる。

74年1月31日、一審、蓮見元事務官は事実を認め、懲役6月執行猶予1年、西山記者無罪、検察控訴。76年7月20日、西山記者、懲役4月執行猶予1年、西山記者上告。78年5月31日、上告棄却。

● **沖縄県発足** 5月15日、午前零時、「復帰」を知らせるサイレンと汽笛が全島に鳴りわたり、沖縄の施政権が27年ぶりに日本に返還され、「沖縄県」発足。ランパート米高等弁務官は零時すぎ、屋良知事（69）が見送るなか、嘉手納基地から東京に向けて出発。那覇市議会は深夜の本会議を招集し、暫定予算案、祖国復帰宣言決議案の審議に入った。午前10時半からは政府主催の記念式典が、東京の日本武道館と沖縄の那覇市民会館で同時に行われ、一方革新陣営は、「核も基地もない沖縄の全面返還」「自衛隊の沖縄配備反対」などを掲げて、全国で集会やデモを行い、自衛隊に火炎ビンを投げつける騒ぎもあった。沖縄にお祝いムードはなく、95万人の「新県民」は、通貨がドルから円になるなど「本土なみ」への対応に追われ、とくに1ドル＝360円が305円に切り替えられたことから物価が上昇、各方面で復帰ショックが起こった。6月25日に初の沖縄県知事選が行われ、屋良朝苗革新知事誕生。

● 5月28日、西成で釜共闘と暴力手配師の騒動。

● **テルアビブ空港日本赤軍乱射事件** 5月30日、PFLP（パレスチナ解放人民戦線）と連携していた日本赤軍の三兵士が、イスラエル・テルアビブのロッド空港の通関ホールで自動小銃を乱射し、手投げ弾数発を爆発させ、プエルトリコ人旅行団など乗降客ら26人死亡、73人重軽傷。奥平剛士（26）、安田安之（26）は現場で死亡、岡本公三（24）は逮捕。8日同じロッド空港でパレスチナ・ゲリラ2人がイスラエル軍の奇襲で虐殺された事件に対する報復だったが、犠牲者の半数は米国籍だった。岡本公三は70年の「よど号」ハイジャック事件で北朝鮮に亡命した岡本武の弟で、三兵士は死して「オリオンの三ツ星」になる覚悟だったと語ったが、日本の若者による無差別乱射事件は「カミカゼ」の再来として内外に強いショックを与えた。

7月17日、イスラエル国防軍の特別軍事法廷、岡本公三に求刑通り終身刑を言い渡す。

85年5月20日、PLOとの捕虜交換によって釈放。

● 6月2日、西独過激派バーダー・マインホフ・グループ逮捕。

● **「日本列島改造論」** 6月11日、佐藤内閣の田中角栄通産大臣（54）、「日本列島改造論」発表。人口の過密と過疎を同時に解消するため工業地帯を再配置、地方に25万人都市の建設、全国に新幹線や高速道路・情報網の整備、の三本柱から成る構想で、都市と農村、太平洋側と日本海側の格差是正を目指すもの。7月5日の自民党総裁選挙で福田赳夫（67）を破って総裁となった田中は、7日に首相に就任して日本列島改造に着手するが、社会党の成田知巳委員長（59）は21日の党首会談で、「企業優先で、土建業や不動産業に奉仕するものだ。土地価格を中心に、物価騰貴を誘発し、公害を全国に拡散する結果になるので反対」と申し入れる。日本経済の高度成長と個人消費の拡大を前提とした「日本列島改造論」は、成田の予測どおり、地価暴騰、インフレ加速を促し、翌年10月の石油ショックで挫折。

● 6月14日、中絶禁止法に反対し、ピル解禁を要求する女性解放連合（中ピ連）結成。

● **ウォーターゲート事件** 6月17日、ワシントンの民主党全国委員会本部に盗聴器を仕

掛けようとした7人の侵入者、逮捕（ウォーターゲート事件の発端）。

20日、民主党が民事訴訟を起こし、27日、グレー連邦捜査局（FBI）長官代行の辞任発表。

73年4月20日、ワシントン・ポストやニューヨーク・タイムズなど、ジャーナリズムの厳しい執拗な追及のなかで、ニクソン大統領は、ハルドマン、アーリックマン両補佐官とリチャード司法長官の辞任、ジョン・ディーン法律顧問の解任発表、自身は事件を全く知らなかったと釈明。

6月25日、罷免されたディーンは上院調査委員会の公聴会で、大統領自身が事件の隠蔽工作に関与したことを証言。他の元側近らの否定にもかかわらず、ニクソンへの疑惑を深める証言が次々と明らかになっていく。

74年8月9日、ニクソン大統領、ウォーターゲート事件の責任をとって辞任することを全米向けテレビ演説で表明、歴代37人の米大統領のなかで初の任期途中で辞任。ニクソン政権の支持率は急落し、世論調査による大統領弾劾支持率も53%を記録。辞任後、フォード副大統領（61）が第38代大統領昇格。アメリカ憲政史上最大の汚点は、同時に民主主義の健全さを立証した。

- 6月24日、英国変動相場制移行により、大蔵省、外為市場閉鎖（6月29日再開）。ポンド・ショックによって、東証ダウ株価、史上最大の暴落記録。

- 6月27日、最高裁、初の日照権・通風権を認める判決。

- 7月10日、映画・演劇・タウン情報誌「ぴあ」創刊。

- 7月21日、チェコ・スロバキアの改革派の知識人と元党幹部4人に実刑判決。8月10日の裁判終了までに改革派知識人の計46人が実刑判決を受け、ドブチェクの改革路線の支持者一掃。

- 8月2日、1万2800円のパーソナル電卓「カシオミニ」発売（10カ月で百万台突破）。64年初登場の国産電卓は重さ25kg、53万5千円。

- 8月4日、米軍、相模原市の補給廠からベトナム向け戦車を大型トレーラーで横浜港へ搬送。5日未明、飛鳥田一雄市長を先頭とする社会党神奈川県本部員ら150人座り込みで阻止、6日、トレーラー帰廠。

- **パレスチナ・ゲリラ、イスラエル五輪チーム襲撃** 9月5日、8月26日から開催中のミュンヘンオリンピックで、早朝5時頃、選手村にいたイスラエル選手団をパレスチナ・ゲリラ「黒い9月」8人が襲撃。役員・選手2人殺害、更に9人を人質にとり、イスラエル政府に同志200人の釈放要求。交渉は深夜にまで及び、ゲリラが人質とともにヘリコプターで移動したフルステンフェルトブルック軍事飛行場で、西ドイツ警察と約一時間の銃撃戦となり、ゲリラ3人逮捕、人質全員、ゲリラ5人、警官1人死亡。この事件は、70年9月6日に起きた、ヨーロッパ発アメリカ行きの飛行機を狙ったパレスチナ・ゲリラによる連続ハイジャック事件に連なるもので、逮捕された3人も翌月29日の別のハイジャック事件によって釈放。大会は翌6日の犠牲者への追悼式後の7日

に続行されたが、追悼式への日本選手団の出席者は皆無に等しかった。

8日、イスラエル軍、オリンピック選手村事件の報復としてシリア・レバノンのパレスチナ・ゲリラ基地空爆。

12月28日、パレスチナ・ゲリラ、バンコクのイスラエル大使館襲撃、イスラエル大使らを入質に、岡本公三らゲリラ36人の釈放要求。

- 9月23日、フィリピンのマルコス大統領（55）独立後初の戒厳令を布告し、野党のベニグノ・アキノ自由党幹事長（40）らを政府転覆罪容疑で逮捕。

- 10月9日、日本政府、国防会議と閣議で総額4兆6300億円、ペア込みで5兆1千億円にのぼる第4次防衛力整備計画（72～76年度）決定。「3次防」の約二倍の増加で、最新鋭の戦闘機・戦車・護衛艦・潜水艦などを陸・海・空の主力装備として導入しようとするものだが、各方面から、なしくずしに日本の「軍事大国」化を進めるものという懸念の声があがった。

- 11月5日、中国から贈られたパンダ二頭が上野動物園で初公開。

- 11月13日、女優の岡田嘉子が戦前に亡命していたソ連から34年ぶりに帰国。

- 11月20日、日本の経済進出に抗議して、タイの学生・市民が日本製品ボイコット運動を10日間にわたり展開。

- 12月22日、アンデス山中墜落機事故で16人の生存者確認、彼らが死んだ仲間の肉を食べて生き延びたことが判明し、世界に衝撃を与える。

この年、ローマ・クラブがマサチューセッツ工科大学（MIT）のデニス・メドウスらによる研究報告「成長の限界」を発表し、幾何級数的に増大する世界人口と、飽くなき物質的な搾取が、来世紀には破壊的な事態をもたらすことを警告し、物質的な豊かさよりも快適さや充足感を保障する社会への価値観の転換を求めた。

日本では海外旅行者が初めて100万人を突破し、139万2045人に達した。85%が観光目的で行き先は、香港34万9千人（前年比23%増）、台湾27万8千人（同23%増）、ハワイ22万5千人（同55%増）、韓国21万7千人（同125%増）で、若い女性が目立ち、4年前に2万3745人だった20代の女性渡航者は、海外旅行の制限も次々に撤廃されて、この年14万9887人となった。

（事物）オセロゲーム

（流行語）恥ずかしながら 総括 ニーハオ 三角大福 日本列島改造論 あっしにはかわりのねえことござんす 知る権利 ナウい 未婚の母 同棲時代 恍惚の人 のんびりゆこうよ バイコロジー ひそかに情を通じ 若葉マーク ポルノ ヘンシン

（TV）「ありがとう」「木枯し紋次郎」「太陽にほえろ！」「必殺仕掛人」「赤ひげ」「新平家物語」「荒野の素浪人」「藍より青く」「オーケストラがやってきた」「セサミ・ストリート」「中学生日記」「NHK銀河テレビ小説」（第1回・楡家の人々）「科学忍者ガッチャマン」

*2/28浅間山荘事件の逮捕時視聴率89.7% 7/1有線テレビ（CATV）法公布

（CM）「愛情はつらつ」丸井 「若さだよ、ヤマちゃん」サントリービール 「杉作、

勉強せいよ」レナウン 「違いのわかる男」ゴールドブレンダー 「おれゴリラ」
明治ミルクチョコレート 「♪金曜日にはワインを買って」サントリー 「♪
ハブ・ア・ナイス・デー」吉田拓郎／富士フィルム

(映画)「故郷」「旅の重さ」「約束」「忍ぶ川」「軍旗はためく下に」「一条さゆり濡れた
欲情」「海軍特別年少兵」「サマー・ソルジャー」「白い指の戯れ」「女囚さそり
・701号」「人斬り与太・狂犬三兄弟」「八月はエロスの匂い」「人生劇場」「喜
劇・女売り出します」「夏の妹」「子連れ狼」「アジアはひとつ」「ゴッドファー
ザー」「死刑台のメロディー」「時計じかけのオレンジ」「わらの犬」「フェリー
ニのローマ」「キャバレー」「ダーティハリー」「ラスト・ショー」「フレンチ・
コネクション」「暗殺の森」「真夜中のパーティー」「デカメロン」「さすらいの
カウボーイ」「好奇心」

(コミック)上村一夫「同棲時代」 萩尾望都「ポーの一族」 池田理代子「ベルサイ
ユのばら」 水島新司「ドカベン」 楳図かずお「漂流教室」 山上たつ
ひこ「喜劇新思想大系」 阿佐田哲也作・北野英明画「天和無宿シリーズ」
黒鉄ヒロシ「赤兵衛」 チャールス・シュルツ「スヌーピーとチャーリー
・ブラウン」 手塚治虫「奇子」「ブツダ」 永井豪「マジンガーZ」

(歌)「喝采」「ひとりじゃないの」「虹をわたって」「ひなげしの花」「結婚しようよ」「旅
の宿」「瀬戸の花嫁」「学生街の喫茶店」「女のみち」「せんせい」「雨」「あの鐘を
鳴らすのはあなた」「どうにもとまらない」「四季の歌」「そして、神戸」「北国行
きで」「夜明けの停車場」「太陽がくれた季節」「赤色エレジー」「ひまわりの小径」
「男の子の女」「さそり座の女」「だれかが風の中で」「ハチのムサシは死んだの
さ」「傘がない」 *キャロル、アリス、チューリップ、古井戸デビュー

(本)有吉佐和子「恍惚の人」 田中角栄「日本列島改造論」 司馬遼太郎「坂の上の
雲」 浜尾実「女の子の躰け方」 松原泰道「般若心経入門」 宮原昭夫「誰か
が触った」 畑山博「いつか汽笛を鳴らして」 山本道子「ベティさんの庭」
郷静子「レクイエム」 網淵謙錠「斬」 井上ひさし「手鎖心中」 梅原猛「隠
された十字架」 丸谷オ一「たった一人の反乱」 山崎朋子「サンダカン八番娼
館」 九鬼素子「旅の重さ」 半村良「産霊山秘録」 金子光晴「ねむれバリ」
森山大道「写真よさようなら」*4/16川端康成(72)、ガス自殺 *12/29アメリカ
の写真誌「ライフ」の国内版が廃刊となり、フォト・ジャーナリズムの衰退の傾向

(スポーツ)3/4大場政夫、花形進に判定勝ちし世界フライ級チャンピオンに

(L I F E) 1月富士ゼロックス、世界初の両面コピー機開発 2月郵便料金、封書2
0円はがき10円に値上げ 3/31築地の中央卸売場、冷凍魚の年間売り上
げが初めて鮮魚を上回る 4/1米が自由価格に 7/20日本人の平均寿命、男
70歳突破 11/24渡航外貨持ち出し制限撤廃

* 公衆電話市内通話10円で3分打ち切りへ * ダイエーが売り上げで三越を抜き、

小売業のトップに *土地ブーム、第2次ベビーブーム、SLブーム

1973年

- 1月1日、イギリス・アイルランド・デンマーク、正式に欧州共同体（EC）に加盟、9カ国拡大EC発足。

- 「福祉元年」1月1日、70歳以上の老人の医療費無料制度スタート。これまでは5割ないし3割が自己負担だったが、そのうちの2/3を国が、1/3を市町村が受け持つ。対象は70歳以上の老人の約92%、320万人となる。9月15日には国電中央線に優先席「シルバーシート」も登場し、この年は「福祉元年」といわれたが、10年後の83年には国の財政難から医療費は一部負担となり、老人福祉は大きく後退する。

- 1月1日、拘置中の連合赤軍最高幹部の森恒夫自殺。

- 1月17日、戒厳令下のフィリピンで新憲法発布。マルコス大統領による独裁体制強化。

- ベトナム和平協定調印 1月27日、南北ベトナム政府と南ベトナム臨時革命政府の3外相及びアメリカ国務長官の4者が、ベトナム戦争の終結と平和の回復に関する和平協定調印。

3月29日、ベトナム駐留米軍、撤退完了。南ベトナムのグエン・ヴァン・ティエウ大統領には民族和解の考えはなく、ベトナムでの領土支配をめぐる戦闘は激化していく。

- コインロッカー・ベイビー続発 2月5日、東京・渋谷駅のコインロッカーで嬰兒の遺体発見。以後各駅で続発、この年だけで43件。

4月20日、宮城・石巻市の菊田昇医師が、中絶希望の母親を説得して出産させ、子供のいない家庭に実子として斡旋していた事実が明らかになる。

- スミソニアン体制崩壊 2月12日、ドル売り激化で米ドル10%切り下げ。

14日、日本政府、71年8月のスミソニアン合意による1ドル=308円の固定相場制放棄、1ドル=277円のレートから変動相場制移行、円急騰、15日、1ドル=264円。経団連は「輸出企業にかなりの打撃を与え、景気回復にも水を向ける恐れがある」と発表。石油の値上げ、輸入自由化した豚肉も値下げにならず、途中で「蒸発」する差益に庶民の間で、「強い円でなぜ暮らしにくい」と不満が高まる。

- 2月27日、武装したアメリカ・インディアン運動（AIM）のグループが、サウス・ダコタ州ウォンディドニー町に住民を人質に取って立て籠もり、アメリカ政府にインディアンの差別撤廃要求。

- 3月1日、パレスチナ・ゲリラ「黒い9月」、スーダンの首都ハルツームのサウジアラビア大使館占拠、ゲリラ指導者の釈放要求。

7月20日、パレスチナ・ゲリラ、オランダ・アムステルダム空港離陸直後の日航ジャンボ機ハイジャック。24日、リビアのベンガジ空港で乗客全員解放後、機体爆破、赤軍派の丸岡修ら4人逮捕。

- 3月13日、国鉄高崎線^{あげお}上尾駅で順法闘争に反発した乗客が暴動化、高崎線運休。

4月24日、赤羽・上野など38駅でも通勤客らが暴れ、首都圏の国鉄マヒ。

●**熊本水俣病裁判勝訴** 3月20日、熊本地裁、水俣病裁判でチッソの過失責任を認め、損害賠償支払いを命じる。これで4大公害訴訟はすべて被害者側の勝訴。水俣病新認患者らは71年12月8日から連日、自主交渉を要求して東京・丸の内のチッソ本社内に籠城し、彼らを支援するため、「水俣病を告発する会」は本社前に座り込むなどの運動を行ったりしていた。

●5月17日、国連食糧農業機関（FAO）、西アフリカ6カ国で約一千万人が大旱魃のために餓死の危機にあると発表。

●**東京ゴミ戦争** 5月22日、江東区議ら、杉並区から搬入のゴミを実力阻止。東京23区から出るゴミの70%を引き受ける江東区では、「迷惑の公平な負担」を掲げ、三年前から各区での焼却工場の建設、減量のうえでの搬入を都に要請していたが、各区での住民反対運動に行き詰まり、前日の杉並区清掃工場の用地決定中止を「住民エゴ」と怒った江東区議が全会一致で実力阻止決議。街にはたちまちゴミがあふれた。

24日、美濃部都知事の仲裁で杉並区に工場建設が約束され、「ゴミ戦争」は決着に向かう。

●6月1日、ギリシャのゲオルギオス・パパドプーロス首相（54）、5月25日のギリシャ駆逐艦での反乱に国王が関与していたとして、王政廃止、自らが大統領に就任して共和国移行を宣言。

11月25日、軍部無血クーデターによりパパドプーロス大統領退陣、ギジキス將軍、大統領就任。

●**周恩来批判** 8月2日、人民日報に孔子を批判した楊栄国（66）の論文が掲載され、林彪批判と共に孔子批判にことよせた周恩来批判が始まる。

24日、中国共産党第10回全国代表大会開催、林彪らの永久党籍剥奪と、文革で失脚した鄧小平（69）ら旧幹部の復権。

●**金大中事件** 8月8日、韓国の野党、新民党の元大統領候補金大中が午後1時半頃、東京九段のホテル・グランドパレスから5人の韓国人たちに連れ去られ、警視庁は空港や港に警戒体制を敷いたが、発見できなかった。

金氏は71年の大統領選で現職の朴正熙大統領に96万票差まで迫ったが敗れ、後も日米を往復して韓国の民主化運動を展開していたため、「情報部が私をマークしている」と語り、滞在中もホテルを転々としていた。

13日、突然ソウル市内の自宅に傷だらけの姿で現れた金氏は、記者団に「麻酔薬がかがされ、車で5～6時間走った先の海岸から、縛られ、目隠し、猿ぐつわの状態」で、日本から船に乗せられて海中に投げ込まれそうになったと恐怖を語り、KCIA（韓国中央情報部）の介在を匂わせた。

14日、外務省、日本政府による捜査実施、韓国側捜査の通報及び、金大中、梁一東（誘拐目撃者）両者の再来日要請。

17日、韓国、原状回復を拒否。

23日、田中伊三次法相、「第六感として某国の秘密警察の仕業に違いないと思う」と発言、翌日に「韓国側に責任がある」と指摘。

9月5日、日本政府、金氏が監禁された部屋から指紋が検出された金東雲^{キム・ドンウン}韓国大使館一等書記官（帰国中）の出頭要請。

6日、韓国政府、拒否（日韓折衝中断）。

7日、野党4党は衆院本会議で主権侵害の確認、対韓経済援助の打ち切り要求。田中首相、「対韓政策の基本は変えない」と答弁。

10月26日、71日ぶりに軟禁を解かれた金大中氏、自宅で記者会見し政界引退表明。金溶植外相、国際法上の原状回復が実現されたと述べる。

11月1日、韓国政府、在日韓国大使館金東雲一等書記官が事件に関係したことを認め、同書記官免職、日本に陳謝。

2日、韓国の金鐘泌首相来日、日本政府と国民に陳謝。田中首相、事件の收拾に同意。

74年8月14日、韓国、金東雲をシロと断定、捜査打ち切り通告、木村外相ら不満表明。

75年6月8日、韓国、金東雲を不起訴処分だが懲戒免職とし、その経過を日本側に報告することで、日韓政府は“政治的妥協”の決着に合意。

●**自衛隊違憲判決** 9月7日、札幌地裁の福島重雄裁判長、長沼ナイキ基地訴訟で初の自衛隊違憲判決。21日、政府控訴。

●9月8日、ソ連の原子物理学者アンドレイ・サハロフ博士（52）、ソ連反体制派の多数が精神病院に隔離され、投薬で知能に害を加えられていることを暴露。

●9月11日、チリでクーデター、人民連合政権崩壊、アジェンデ大統領自殺。

●9月23日、アルゼンチン大統領選で、55年の軍事クーデターで失脚したファン・ドミンゴ・ペロン（78）返り咲く。

●**中東戦争とオイル・ショック** 10月6日、午後2時、エジプト・シリア軍がイスラエルを急襲、第4次中東戦争勃発。アラブ側はこれまで4度の戦争で初めて緒戦で優位に立つが、14日、3日間にわたる壮絶な戦いの末、イスラエル軍はエジプトのミサイル基地を撃破、続々とスエズ運河西岸に渡り、戦闘の主導権を握る。こうした状況を受けて17日、アラブ側はアメリカなど西側諸国への圧力を強化するために、石油を武器とする「石油戦略」を打ち出す。まず、サウジアラビアを中心とする石油輸出国機構（OPEC）加盟の中東産油6カ国が、クウェートで緊急会議を開き、原油の公示価格の21%引き上げ宣言。続いて、アラブ石油輸出国機構（OAPEC）10カ国閣僚会議も石油生産の5%削減決定、イスラエルに協力的な国への石油供給停止発表。

21日、国連安保理、米ソ共同提案の現状停戦採択。22日、今回の戦争がアラブがイスラエルに占領された領土回復を目的としたものと明示した停戦決議が、国連安保理で成立し、エジプトのサーダット大統領はこれを受諾し、イスラエルの存在を認める現実政策への転換を示す。

一方、アラブの石油戦略により、日本を含む先進工業国は経済的・政治的に大きな影

響を被り、この石油ショックによって日本では、主婦がトイレットペーパーの買い占めに走るなどの社会現象も発生、石油供給源としての中東に対する外交は、見直しを迫られる。

● 10月14日、タイの新憲法早期制定を求める学生・知識人らを中心とするデモが警官隊と衝突、これをきっかけに軍事政権のタノム内閣は辞職し、文民政府誕生。

● 高度経済成長から「省エネ」時代に10月23日、OPECの70%近い値上げを受け、国際石油資本のエクソン、シェル両社、日本に原油価格30%値上げ通告、以後他のメジャーも追随。

25日、他の大手国際資本が一斉に日本向け原油供給量10%削減通告。

11月2日、トイレットペーパー・パニックで尼崎市の老女(83)大ケガ。以後、砂糖、塩の買いだめから洗剤、灯油など生活必需品の買いだめ、窃盗多発。メーカー、商社の売り惜しみが買いだめを誘発する。30日、日石、販売量20%規制の方針。

12月22日、石油ショック鎮静化対策として石油需給適正化法と国民生活安定緊急措置法の二法施行し、石油・電力供給20%削減。

23日、湾岸産油国、74年から原油2倍値上げ決定。

25日、OAPEC石油相会議、日本、ベルギーなどの友好国には必要量の石油提供と宣言。

74年2月6日、国会でゼネラル石油が「(石油危機は)千載一遇のチャンス」と系列にボロ儲けの方法指示・奨励を行っていた事実追及。

(事物) ゴキブリホイホイ コーヒーメーカー デジタル腕時計 シルバーシート

(流行語) 石油ショック 省エネ 日本沈没 ちょっとだけよ あんたも好きねえ ャックリズム 終末ぐうたら モノ不足 終末 せまい日本そんなに急いでどこへ行く 狂乱物価 デマゴン 即〇〇 地本主義 3分間待つのだぞ 同棲

(TV) 「子連れ狼」「国盗り物語」「刑事コロンボ」「うわさのチャンネル」「それぞれの秋」「ドラえもん」「ウルトラマンタロウ」「おもちゃ屋ケンちゃん」「江戸を斬る」「ひらけ! ポンキッキ」「新八犬伝」「3時に会いましょう」「どてらい男」「北の家族」「越前竹人形」「同棲時代」 *11/21美空ひばり、NHK紅白歌合戦に落選 *12/14石油ショックに伴い、在京民放5社、深夜放送自粛決定

(CM) 「いま、なんどきですか」ハウスラーメン 「じっとがまんの子であった」ボンカレー 「いったい日本はどうなるんだろう」開高健/サントリー角瓶 「美人しか撮らない」研ナオコ/ミノルタ 「タコの赤ちゃん」ソニー

*12/13CM界の鬼才杉山登志、「ハッピーでないのに、ハッピーな世界などがけません」の遺書を残し、37歳で自殺

(映画) 「仁義なき戦い」「津軽じょんがら節」「股旅」「恍惚の人」「四畳半襖の裏張り」「青幻記」「戒厳令」「男はつらいよ・寅次郎忘れな草」「同棲時代」「赤い鳥逃げた?」「鉄砲玉の美学」「水俣一揆」「三里塚-辺田部落」「初国知所之天皇」「スケアクロウ」「ジョニーは戦場に行った」「ジャッカルの日」「ポセイドン・アドベンチャー」「ブ

ラザー・サン シスター・ムーン」「激突!」「L・B・ジョーンズの解放」「マクベス」「ラスト・タンゴ・イン・パリ」「ゲッタウェイ」「フォロー・ミー」「ボギー!俺も男だ」「探偵・スルース」「ロイ・ビーン」「ピリー・ザ・キッド21歳の生涯」「ふたり」
 *3/27マロン・ブランド、アカデミー主演男優賞受賞拒否声明
 (コミック)「愛と誠」「エースをねらえ!」「あぶさん」「はだしのゲン」「釣りキチ三平」「おれは鉄平」「のたり松太郎」「ブラックジャック」「うしろの百太郎」
 大島弓子「ミモザ館でつかまえて」 土田よしこ「つる姫じゃ〜っ!」
 里中満智子「アリエスの乙女たち」
 (歌)「神田川」「危険なふたり」「私の彼は左きき」「恋文」「なみだ恋」「てんとう虫のサンバ」「五番街のマリー」「夢の中へ」「心もよう」「夜空」「草原の輝き」「他人の関係」「同棲時代」「赤い風船」「みずいろの手紙」「コーヒーショップで」「ファンキー・モンキー・ベイビー」「恋する夏の日」「わたしの青い鳥」「くちなしの花」「恋のダイヤル6700」「冬の旅」「あなた」「君が美しすぎて」「心の旅」「母に捧げるバラード」「なみだの操」
 (本)小松左京「日本沈没」 遠藤周作「ぐうたら人間学」 渡辺正「にんにく健康法」 山崎豊子「華麗なる一族」 司馬遼太郎「国盗り物語」 糸山英太郎「怪物商法」 三木卓「鶉」 森敦「月山」 野呂邦暢「草のつるぎ」 藤沢周平「暗殺の年輪」 長部日出雄「津軽世去れ節」「津軽じょんがら節」 堀田善衛「ゴヤ」 加賀乙彦「帰らざる夏」 大江健三郎「洪水はわが魂に及び」 中上健次「十九歳の地図」 宮尾登美子「櫂」 田村隆一「新年の手紙」 吉増剛造「王国」 井上光晴「心優しき叛逆者たち」 安部公房「箱男」 エリクソン「ガンディーの真理」 五島勉「ノストラダムスの大予言」 東松照明「太陽の鉛筆」
 (AMUSE) 1/8入管局、ミック・ジャガーの入国拒否、ローリング・ストーンズの公演中止 2月美空ひばりショーのボイコット続く 3/25都営ギャンブル全廃
 5月演劇センター68/71の黒テント、常打ち地武蔵野市の空地进行騒音問題で追われる 7/1天井桟敷、日本初の街頭演劇「地球空洞説」を高円寺小松公園で 7/14演劇団・つんぼさじき、演劇センター68/71公演中の紀伊国屋ホールに殴り込み
 (スポーツ) 5/27ダービーでタケホープ、ハイセイコー破る 11/1巨人、V9達成
 (LIFE) 4月三宅一生(35) パリにデビュー 4月振り替え休日制定 5/1厚生省、身体障害者のための車椅子用道づくり始める 6/14パルコ渋谷店オープン 7/25日本シェーキーズ、ピザ第1号店を東京・赤坂に開店 8/1鉄道弘済会売店をKIOSKと呼称 8/1電電公社、電話ファックス営業開始 8月新宿・風月堂閉店 10/1富士科学・赤チン製造中止 11/14関門橋開通
 *ルームクーラーの家庭普及率、約13% *海外旅行ブーム、海外渡航者200万人突破 *幻のヘビ"ツチノコ" ブーム

2005年3月7日記